

ガソコ親父の

昔々、松次郎は有名な商家に勤めていた。丁稚奉公から始まったが、今ではすっかり聡明な若者に成長していた。職場には仲の良くない仲間が三人いた。ある日の休憩時間、「昨夜、台所からゴキブリが出てきたけど、やっぱりゴキブリは大嫌いだ。あの黒光りをしてガサゴソ歩く姿を見ただけで鳥肌が立つよ」と一人が言い始めた。「なんや、そんなもん怖がって。別に噛まれるわけおまへんやろ。本当に一番怖いというのはやっぱりムカデですわ。ワテが寝ている時、そいつが首元でゴソゴソしていたことがあったんや。ほんまに冷や汗出たわ」

「一人とも怖がりすぎばい。たかがゴキブリやムカデぐらいで。一番は蛇ばい。あの三角頭のマムシに出くわした時には、もう足がすくんでしもたね。情けなな話やけど少しちびった。ハブとかガラガラ蛇とか考えたくもなか」

みんな、自分の経験をベースに一番怖かったことを喋った。「おまえさんも怖いものがあると思うけど、どうだい？」と松次郎はゴキブリを怖がる同僚から尋ねられた。松次郎は「じつは饅頭が怖いだ」と大真面目に言った。みんなは呆気に取られた。

饅頭と口走った松次郎の顔からは血の気が引き、すぐに青ざめていった。すぐに襖むこうの隣部屋に布団を敷いて寝てしまった。それを聞いていた「蛇を嫌いな」同僚は、意地の悪いことを考えた。番頭さんに一番可愛がってもらっている松次郎に対して、日頃から嫉妬心を募らせていたのだった。よし、この機会にいじめてみようとの二人に、良くない相談を持ちかけた。

「番頭さん。松次郎が気分が悪かと言って寝るとですが、何か元気の出るものを持っていってあげたかです。饅頭でも買ってきてよかですか？」と何食わぬ顔で話した。それを聞いた番頭さんは「よし、これで買つといで」と懐から財布を出した。

「おい松次郎、これを食べたら元気になるばい。番頭さんからたい」と饅頭の皿を、寝込んでいる松次郎の枕元に差し出した。ふふっ、目を覚ましたら饅頭を見て、卒倒してしまつた。三人はそつと部屋から出た。松次郎の悲鳴が聞けるかもしれないと、隣の襖越しに耳を傾けていたら、やがてムシヤムシヤという幸せな音が聞こえてきたではないか。不審に思った三人は襖を開けてみると、饅頭を頬張り、満面の笑みをたたえた松次郎が布団の上に座っていた。みんなその場でずっこけた。

「僕は五男坊で、子供の頃から生存競争が激しく、特に饅頭などはどんなに泣き叫んでも、兄たちから力づくで奪われたんだ。悲惨な思い出しかない。だから、思い出すだけで怖かった饅頭もこんなに気持ちよく食べられて、今日はもう最高！」

三人はいじめようと思ったのに、逆に機知に富む松次郎の尻にかかってしまったのだ。「あつ、そつそつ。僕にはもうひとつ怖いものがあるんだ。焼酎、それも『しまっちゅ伝蔵』が二番目に怖いんだけど」と松次郎は言った。

「みんなで僕の全快祝いというところどう？ 番頭さんに頼んでみてよ？ ふふっ」。一緒に飲んだら、僕たちも仲良くなれるかもと、松次郎はワインクをした。



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25%) 1800ml (25%) 1800ml (25%)

喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



喜界町
鹿児島県

「饅頭怖い」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。